

とぎつちよう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ていがくねん む あきごう
低学年向け 2023年 秋号



「おまつりとごちそうで世界いっしょ」

アリス・B・マッギンティ/作

スズキ トモコ/絵、星野 由美/訳 (汐文社)

世界のおまつりや、その日に食べられるごちそうを紹介してくれます。

オーストラリアの12月は夏。クリスマスは海辺でサンタのぼうしをかぶり、バーベキューでおいわいしているみたいです。

あなたはどこの国のおまつりに行ってみたい？長崎の秋のおまつり「おくんち」にも行ってみよう♪

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく(家読)」です。

難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「フォックスさんのにわ」

ブライアン・リーズ/作 せな あいこ/訳 (評論社)

フォックスさんと犬は、はなれたことがあります。いっしょにあそんで、おやつを食べ、おながくをきいて、ぼうけんにも出かけます。一番のお気に入りのは、庭仕事をする事。

ある日、思いもしなかったことがおきて、なにもかもがかわってしまいました。フォックスさんは、にわをめちゃくちゃにたたきこわし、きりきざんですててしまったのです。ところが、へいのしたからカボチャのつるがのびてきて…。



「こんにちは、アンリくん」

エディット・ヴァシュロン/文
ヴァージニア・カール/文・絵
松井 るり子/訳 (徳間書店)

フランスにすんでいるアンリくんには、家族がたくさんいます。同じようにねこのミシェルくんも、大家族です。

ある日、アンリくんとミシェルくんは、それぞれのお母さんにたのまれておつかいにいきました。二人は、大きなお魚のとりあいになり…。

アンリくんの楽しいお話が三つ楽しめますよ。



「おさらをあらわなかったおじさん」

フィリス・クラジラフスキー/文

バーバラ・クーニー/絵 光吉 夏弥/訳 (岩波書店)

町はずれの小さな家に、ひとりっきりですんでいるおじさんは、お料理が大すき。

あるばん、いつもよりずっとおなかがすいていたので、うんとたくさんばんごはんをつくりました。食べ終わったときにはとてもくたびれてしまったので、おさらはそのまままがしにほおっておきました。つぎの日も、またつぎの日も、おさらはながしのなかへ。とうとう、家中のおさらをつかってしまいました！

さて、おじさんはどうしたでしょうか？



「ぼくのスカート」

ピーター・ブラウン/作・絵
日高 庸晴/監・訳 (小学館)

ぼくはフレッド。ある日、お父さんとお母さんのクローゼットにはいってみました。

まずは、お父さんの洋服を着て…なんだかしっくりこない。つぎは、お母さんのワンピース。あらなんだかいいかんじ♪それから、アクセサリも身につけて…。

家族だからこそ、多様性・ちがいをみとめあえるようになれたらいいね♪



「ふらいぱんじいさん」

神沢 利子/作 堀内 誠一/絵 (あかね書房)

ふらいぱんじいさんは、まっくろなおなべのおじいさん。ある日、おくさんがあたらしいめだまやきなべを買ってきて、ふらいぱんじいさんは、もう、たまごをやかせてもらえなくなりました。

おちこんでいるところを、ごきぶりにはげまされたじいさんは、たびにでることにします。ジャングルや海で大ぼうけん！さて、さいごにじいさんが落ちついたばしょは？